

抗加齢歯科医学特論

Advanced Course of Anti-Aging Oral Medicine

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 血管内皮細胞
- ③ 生活習慣病
- ④ 抗加齢歯科医学
- ⑤ 口腔-全身循環相関

授業概要

運動、睡眠、食生活、サプリメント摂取を考慮した健康増進あるいは生活習慣病予防に着目し、口腔内環境の改善と健康増進に関する最新の論文や、口腔の健康に関するあらゆる情報を探索し、それらの根拠を科学的に証明・実践するために必要な研究方法、動物モデル選択、結果の解析や評価方法について議論を進めながら解説を加える。さらに、積極的予防法としての口腔環境の改善が全身の健康保持・増進に繋がるという抗加齢歯科医学の見地より、全身-口腔循環系と疾病罹患の相互作用の可能性について議論しながら学修していく。

授業科目の学修目標

健康増進あるいは生活習慣病の積極的予防と口腔内環境の改善の重要性に関する最新の論文について、それらを科学的に証明・実践するために用いられた動物モデルや研究方法、得られた結果の解析や評価方法について議論を深めながら、この領域の最新の情報理解し、国際的な幅広い知識を身につける。

授業計画

- ① 抗加齢歯科医学と循環機能変動の意義
 - ・抗加齢歯科医学 2コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣病-循環病態論 8コマ 高橋俊介
- ② 抗加齢歯科医学による循環器疾患の予防 4コマ 高橋俊介
- ③ 抗加齢歯科医学的健康増進論
 - ・生活習慣病と生体反応論 4コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣病と歯肉組織反応論 2コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣と末梢血管弾性-口腔血管機能反応論 4コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣と口腔内循環による生体情報解析論 4コマ 高橋俊介
 - ・歯周病・生活習慣病の相関性理論と口腔内循環による疾病重症度解析論 2コマ 高橋俊介

教科書および参考書

- ・血管内皮機能を診る 循環器疾病管理に生かす評価と実際、南山堂、東條美奈子
- ・非侵襲的検体検査の最前線、シーエムシー出版、槻木恵一監修
- ・アンチエイジング医学の基礎と臨床、メジカルビュー社、日本抗加齢医学会 専門医・指導士認定委員会

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

抗加齢歯科医学特論では関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 抗加齢歯科医学と循環機能変動の意義を説明できる。
- ② 抗加齢歯科医学による循環器疾患の予防を理解し応用することができる。
- ③ 抗加齢歯科医学的健康増進論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、抗加齢歯科医学的健康増進論の5項目について課題を提出する。6%×5回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

抗加齢歯科医学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。